

当財団では、調査研究の成果を、出版物を通して広く公開しています。各書は次の方法でお求めいただけます。

●当財団ホームページ／賛助会員様は一部を除き会員価格がごいます。
<http://www.jtb.or.jp>

●書店／大型書店、政府刊行物サービスセンター（官報販売所）取扱所などで購入いただけます。または、お近くの書店で注文ください。
 ●オンライン書店／オンライン書店からは、紙書籍版とともに、電子書籍のペーパーバック版（プリントオンデマンド印刷）、電子書籍版も発行しています。

■美しき日本 旅の風光（JTBパブリッシング）（2014年5月発行）

調査研究専門機関として50周年を迎えたことを期に、当財団が長年取り組んできた「日本における観光資源の評価に関する研究」の成果を基に監修した写真集。完全英語訳付きで海外の方にも広く日本の観光資源の魅力をお伝えできる1冊。
 ＊電子書籍版も発行中（電子書籍版は掲載写真の部を変更あるいは非掲載となっています）



■平成26年度観光地経営講座 講義録 最新刊（2015年3月発行）

＊オンライン書店（amazon.co.jp）三省堂オンデマンドよりペーパーバック版（プリントオンデマンド印刷）も発行中。

平成26年度の「観光地経営講座」の講義録。「観光地経営の、8つの視点と実践」組織を見直して実行力を高める」を主題に、特に「組織人材」に焦点を当て、山梨県富士河口湖町、八ヶ岳南麓（山梨県長野県）で活躍する方々の事例紹介から実践的な考え方やノウハウに触れ、持続可能な観光地づくりのヒントを解説した1冊。



■2014年度温泉まちづくり研究会ディスカッション記録（2015年7月発行）

＊オンライン書店（amazon.co.jp）よりペーパーバック版（プリントオンデマンド印刷）も発行中。

当年度開催3回の記録です。第1回は「海外の魅力的なリゾートに学ぶ」。第2回は「現代アートを起爆剤に温泉街を活性化!?」道後温泉のまちづくりに学ぶ。第3回は「改めてインバウンドについて考える」。温泉地の将来を考える上で、多くのヒントが見えてくる1冊。



■旅行年報2015（2015年10月発行）

＊オンライン書店（amazon.co.jp）よりペーパーバック版（プリントオンデマンド印刷）も発行中。
 日本人の旅行実態に関する調査、訪日外国人の発地調査、都道府県別の観光政策アンケート調査などの当財団独自調査の分析レポートを中心に、「旅行市場」「観光産業」「観光地」「観光政策」について直近1年の動向・出来事を総覧した1冊。当財団の研究者が分析執筆、編集。当財団ホームページにてPDFを公開



※担当：公益財団法人日本交通公社 観光研究情報室
 電話 03・5544・6076 <http://www.jtb.or.jp>

次号予告

●東日本大震災から5年が経過しようとしています。復興に向かう過程では、被災者自らの努力とともに多くの方々の支援があったと伝えられています。被災地応援ツアーなども頻繁に企画されましたが、観光が果たした役割は？ 復興の現場で活動された方々の声を通して、観光の意義と可能性を探ります。

当財団からのおしらせ

前号227号の「図書館リニューアルオープンに向けて」でお知らせしましたように、今年9月をめぐりに南青山に当財団事務所と図書館を移転させる予定です。2016年度のシンポジウムなどの開催計画・予定の詳細については、準備ができ次第、当財団ホームページ（<http://www.jtb.or.jp>）のご案内させていただきます。

「研究員コラムの紹介」（2015年9月～11月）

各研究員が独自の経験と視点を基にして、ホットな雑感を綴ります。当財団ホームページ「研究員コラム」に掲載した3カ月分を、紹介します。

- 【研究員コラム一覧】で検索できます。
- 2267 地場産品ビジネスの仕入範囲を考える
 第4回「たびとしょ」Cafeに参加して (川口明子)
 - 2268 沖縄で台風が当たってしまったら (川村竜之介)
 - 2269 「地域愛」が雇用を守る？ (菅野正洋)
 - 2270 「圏外」で考えた旅の時間 (久保田美穂子)
 - 2271 旅行は、「あちこち派」？「じっくり派」？ (五木田玲子)
 - 2272 まちづくりと観光事業の間にある壁④ (後藤健太郎)
 - 2273 中国の税制と訪日消費 (塩谷英生)
 - 2274 旅の人が夢みたりものは (清水雄一)
 - 2275 観光地域づくり人材育成に必要な2つのポイント (外山昌樹)
 - 2276 その観光地は生きているか (中島泰)
 - 2277 「交流や生活文化体験」を求める観光客のための宿泊施設 (中野文彦)
 - 2278 都市計画学会に見る「観光」 (西川亮)
 - 2279 地域の博物館、どう見せる。どう活かす？ (福永香織)

編集後記

◆本誌の特集企画で、215号の改訂版以降、どのようなテーマを設定して読者に伝えようとするか編集を通して見てきました。観光資源、温泉地、地域活性化、経済効果などは日本の地域に根差した当財団の研究活動が主なテーマでした。世界が空間的にも時間的にもより狭くなってきている中で、我が国の観光研究は一体どのように位置づけられるのでしょうか。

◆アジアにおける産学官の関係の中で展開する観光研究の状況を現地でヒアリングした調査内容を報告するとともに、誌上座談会や対談を通して情報提供しました。だれのため、なんのために、どうして観光を研究するのでしょうか。研究者の置かれている立場そして社会からの期待もさまざまであることが分かってきました。

◆日本の独自性、魅力にひかれて、訪日外国人旅行者数が増えつつあります。海外の研究者もこの現象に興味を持っていることも分かりました。会議や共同研究などの場で研究者同士が情報共有し知的交流をすることの意味を考える機会にもなりました。日本における観光研究として研究者がどうあるべきか、本号の記事が少しでも参考になることを期待しています。 (片桐)

観光文化編集室メールアドレス：
kankouunka@jtb.or.jp